

# 令和7年度ふくしま学力調査結果資料

## 1 調査の概要

(1) 調査日時 令和7年4月23日（水）～5月9日（金）

※ 各学校が期間内の任意の日に実施

### (2) 調査内容

- 小学4～6年 国語、算数
- 中学1・2年 国語、数学
- 生活習慣や学習環境等の質問調査

### (3) 調査対象 (人)

【小学校】

	小4年国語	小4年算数	小5年国語	小5年算数	小6年国語	小6年算数
福島市	1,901	1,901	1,980	1,980	2,009	2,011
福島県	13,172	13,172	13,385	13,387	13,652	13,646

【中学校】

	中1年国語	中1年数学	中2年国語	中2年数学
福島市	1,699	1,699	1,806	1,806
福島県	12,474	12,468	12,540	12,543

## 2 教科に関する調査の結果（本市と県の平均正答率及び学力レベルの比較）

【小学校】		福島市 (ア)		福島県 (イ)		平均正答率 比 較 (ア-イ)	学力レベル 比 較 (ア-イ)	学力の伸び (前年度比)
4 年 生	国 語	52.7	6-C	53.2	6-C	-0.5	同 じ	
	算 数	64.8	5-C	65.4	5-C	-0.6	同 じ	
5 年 生	国 語	54.4	6-A	53.5	6-A	+0.9	同 じ	+2層
	算 数	56.5	5-A	55.3	5-A	+1.2	同 じ	+2層
6 年 生	国 語	54.2	7-C	53.0	7-C	+1.2	同 じ	±0層
	算 数	54.5	6-B	54.8	6-B	-0.3	同 じ	+2層
【中学校】		福島市 (ア)		福島県 (イ)		平均正答率 比 較 (ア-イ)	学力レベル 比 較 (ア-イ)	学力の伸び (前年度比)
1 年 生	国 語	57.9	7-A	57.5	7-A	+0.4	同 じ	+1層
	数 学	54.9	7-C	54.5	7-C	+0.4	同 じ	+1層
2 年 生	国 語	60.9	8-B	59.7	8-B	+1.2	同 じ	±0層
	数 学	55.6	8-C	54.3	7-A	+1.3	+1層	+3層

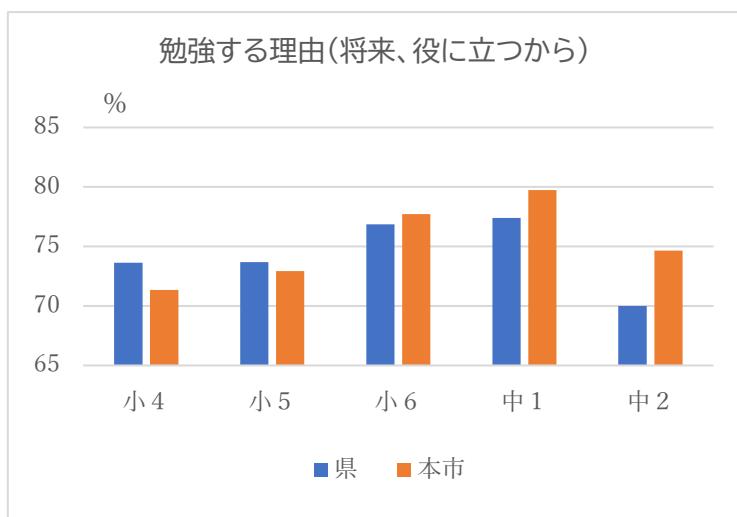
### 3 本市の内容別結果 (○県を上回っている主な内容 ▲課題となる主な内容)

小4年 国語	○文の構成（主語・述語を選択すること） ○文を読み返し、より良い文にすること ▲漢字を筆順通りに正しく書くこと ▲物語に書かれている出来事を読み取ること	小4年 算数	○お互いの中心を通る円に示された線の長さを求めること ○時計を読み取り、時刻を計算して求める こと ▲3位数×2位数のかけ算を計算すること ▲円周上の2点を結ぶ線の中で、最も長い 線を選ぶこと
小5年 国語	○要点を整理し、表にまとめる こと ○インタビューの流れから質問の内 容を読み取ること ▲漢字の部首を理解すること ▲文の構成を理解し、適切な形に書き 換えること	小5年 算数	○二次元表を読み取ること ○目的に応じて、測定するデータを選ぶ こと ▲3位数と2位数のわり算を計算すること ▲整数のたし算、ひき算、かけ算、わり算 が混在した式を計算すること
小6年 国語	○熟語の構成を理解すること ○物語中に描かれている登場人物の 考え方を読み取ること ▲文脈に即して漢字を正しく使うこと ▲慣用句の意味を理解し、適切に使う こと	小6年 算数	○単位量当たりの大きさを用いて、価格を 比べること ○円グラフから、全体と部分や部分と部分 の関係について読み取ること ▲異分母の分数のたし算を計算すること ▲最大公約数を求める
中1年 国語	○ことわざの意味を理解し、適切に使 うこと ○文脈に即して漢字（訓）を正しく読 むこと ▲古文の内容を知ること ▲目的に応じて必要な資料を見つける こと	中1年 数学	○二人が一定の速さで歩いたとき、出発して から何分後に二人は何mはなれてい るか求める ○与えられた式から、図形のどの部分の面 積を求めたかを説明すること ▲逆数の意味を理解し、小数の逆数として 適切なものを選ぶこと ▲ともなって変わる2つの数量が比例する ものを選ぶこと
中2年 国語	○ことわざの意味を理解し、適切に使 うこと ○主題をとらえる（古文中の登場人物 の言動を選択する）こと ▲文脈に即して漢字（音）を正しく書 くこと ▲書体の違いによる筆順や点画の変 化を理解すること	中2年 数学	○展開図を組み立てたときにある辺と垂直 になる面を選ぶこと ○得点の範囲を選ぶこと ▲自然数を素因数分解すること ▲自然数の意味を理解し選ぶこと

## 4 児童・生徒質問調査の主な結果

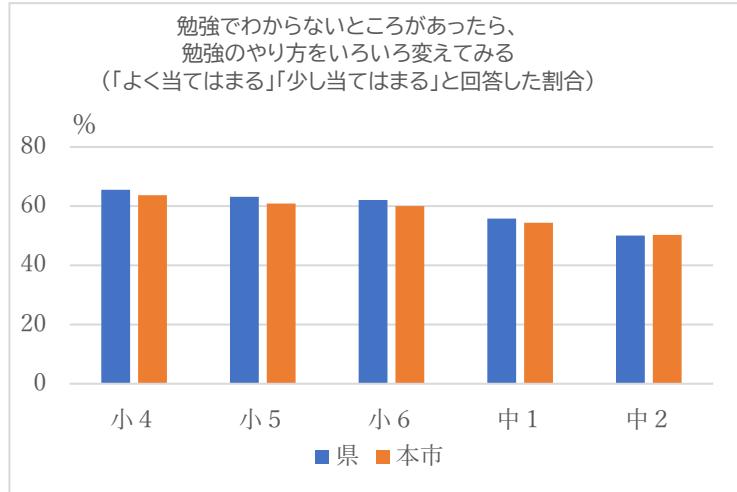
### ○将来を見据えた学習意欲の高さ

勉強する理由について、どの学年のデータを見ても、児童・生徒は「将来、役に立つから」という理由を最も多く挙げていることから、学習と将来の目標との結びつきを意識できていることがわかります。高い目的意識は、学習のモチベーションを維持する上で大切です。特に中学生になると、キャリア形成や進路選択への意識の高まりが見られ、県平均の数値を上回っています。本市の児童・生徒たちは受け身ではなく、自ら課題を設定し、解決していく能動的な学習者へと成長する可能性を秘めています。



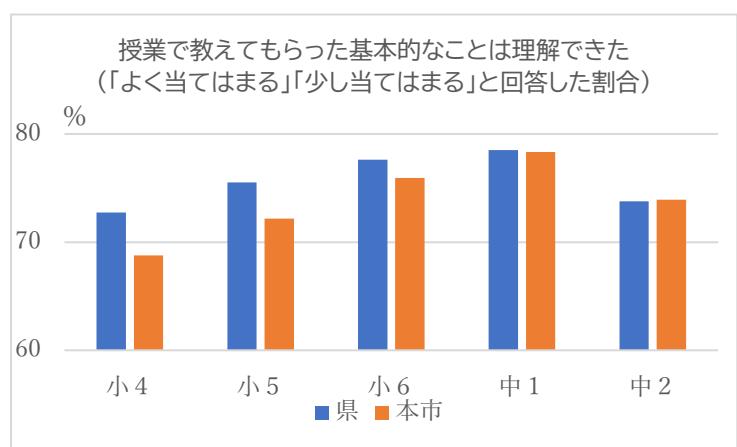
### ○粘り強く学習に取り組む姿勢

「勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる」という項目への肯定的な回答は、学年が上がるにつれて県との回答割合の差が縮まる傾向にあります。これは、児童・生徒が困難な課題に直面しても、簡単にあきらめずに粘り強く取り組む力を身に付けていることを表しています。これは、学習だけでなく、実社会で直面するであろう様々な問題に対処するための重要な能力です。本市の児童・生徒は、日々の学習や生活を通して、自己を律する力を身に付けています。



### ○基礎的な授業内容の理解

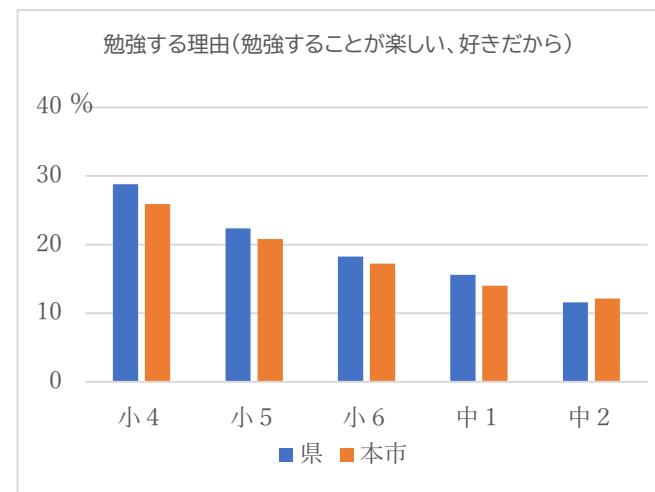
「授業で教えてもらった基本的なことは理解できた」という項目への肯定的な回答は、学年が上がるにつれて県との差が縮まる傾向にあります。基礎・基本をしっかりと理解していることで、より発展的な学習にも挑戦する準備ができます。これは、教師の丁寧な指導と、児童・生徒の真摯な学習態度が結びついた結果と言えます。



以上の結果から、児童・生徒は将来を見据えて学習し、困難にも粘り強く取り組んでいることがわかりました。さらに、基礎的な授業内容はしっかりと理解しており、目的意識、忍耐力、基礎学力の3つの面で児童・生徒のよさが見られました。

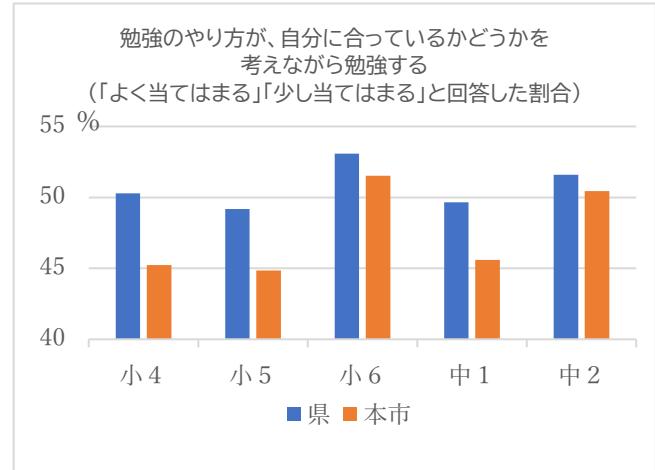
## ○学習への内発的動機づけの弱さ

「勉強することが楽しい、好きだから」という回答の割合が、県の傾向と同様に学年が上がるにつれて低下する傾向にあります。このことは、児童・生徒の学習が、「将来、役に立つから」といった理由に依存していることを示しているとも言えます。「必要だから」というだけでなく、興味・関心や好奇心から学ぶ喜びを見出すことを大切にしていきたいと考えます。この状況を改善するために、本市では、一人一人の興味や関心を引き出し、知的な探究心を刺激するような授業の工夫や学習活動を積極的に取り入れるとともに、児童・生徒が自分で選択、決定して学ぶ機会をつくっていきます。



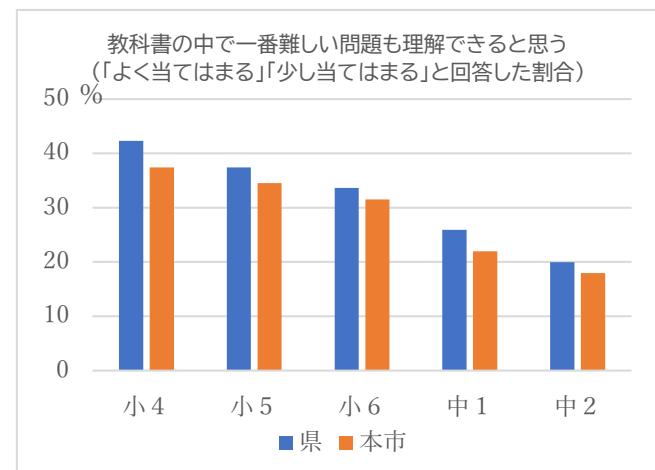
## ○自分に合った学習方法の未確立

自分で学習計画を立てたり、自分に合った勉強法を考えたりする自己調整学習の能力が未成熟な児童・生徒が若干多い傾向にあります。特に、「勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する」という項目では、肯定的な回答がどの学年でも県と比較して低い傾向にありました。この課題を克服するために、児童・生徒が自ら計画する場面を増やし、教師が学習方法に関するアドバイスを行ったり、児童・生徒自身が学習の振り返りを行う機会を増やしたりしていきます。



## ○難しい問題への挑戦意欲の低さ

「教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う」という項目への肯定的な回答が低い傾向にありました。基礎的・基本的な内容の理解は進んでいますが、応用問題や発展的な内容になると自信をもてない児童・生徒が多いことがうかがえます。この課題を解決するために、成功体験を積み重ねながら、自信をもてるよう、個々の学習の状況に合わせた課題に取り組んだり、失敗を恐れずに挑戦できる環境を整えたりすることを大切にしていきます。



データから見えてくる共通の課題は、「学習の楽しさ」が不足していること、自分で学び方を調整する力が未成熟であること、そして難しい問題に挑戦することを諦めてしまう傾向があることです。これらの課題は、児童・生徒が主体的な学習者として成長していく上で重要な視点であり、改善を図っていきます。